

論文六ノ一

震災後の名歌手ラーフと

モーツァルトの歌劇『イドメネオ』

一七五五年万聖節の巨大地震はザルツブルクの音楽家レオポルド・モーツアルトにも、一抹の動揺を及ぼした。当地での震動は感知されぬ程度であったが、レオポルドがとくに不安を抱いたのは、妻アンアン・マリアの胎中に息子ヴォルフガング・アマデウスが宿るからである。地震の衝撃を受けると、妊婦は早産しやすい、との俗信がヨーロッパには存したらしい。広く親しまれる知られる器楽曲『橇そり乗り』をこの年作曲した彼は、主著『ヴァイオリン奏法』の印刷についてアウグスブルクの印刷業者ルターと折衝を重ねていた。リスボン大地震とモーツアルト生誕に係わる記述として、ルターに宛てた一連の書簡を抄訳する。

レオポルド・モーツアルト 一七五五年十二月十五日付書簡

宛先 アウグスブルグ、ヨハン・ヤコブ・ロッター 発信 ザルツブルク

・・・最愛の奥様がまもなく出産の重荷から無事解放され、嬉しくも元気なお姿に戻られることを祈ります。貴家の慶福を同じく祈るわが妻も、そうした難行を明年一月末に控えています・・・

レオポルド・モーツアルト 一七五五年十二月二十九日付書簡

宛先 アウグスブルグ、ヨハン・ヤコブ・ロッター 発信 ザルツブルク

親愛なるわが友へ！

新しき年を慶賀し、

誕生されたご子息のご多幸を祈る！

奥様が予定より早く出産の重荷を無事降ろされたことを、わが妻とともに喜び申し上げます。アウグスブルグにおける地震の衝撃がおそらく早産の原因でしょう。驚倒すると早産しやすいと、一般に申します。どんな地震だったのですか。ザルツブルクでの情報ですが、ミュンヘン、アウグスブルグ、インゴルシュタット、そのほか各地が揺れたようです。酔人が川に落ちたかも、寝台から放り出された男が、脇机で頭を打ったかも知れません。ここでははいまだ地震が生じません。神意に感謝しています・・・

レオポルド・モーツアルト 一七五六年二月九日付書簡

宛先 アウグスブルグ、ヨハン・ヤコブ・ロッター 発信 ザルツブルク

・・・ここに書き添えますが、一月二七日夕宵八時頃にわが妻は男の子を無事出産致しました。ただし、産後処置が必要となり、そのためかなり衰弱しました。神の恵みにより、いまは母子とも元気です。貴殿によるしくお伝えください、と彼女は申します。この子をヨアネス・クリソストムス・ヴォルフガング・ゴットリーブと名付けました・・・  
①

リスボン大地震の八八日後呱呱の声を挙げたヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトは、三歳ときからチエンバロを奏し、五歳にして作曲を始めた。やがて父レオポルドの同伴でドイツ各地への旅行に出立し、ベルギーとフランスを経て一七六四年ロンドンに到着する。ここでは英国国王ジョージ三世に謁見を賜り、六

① Mozart, Briefe und Aufzeichnungen Gesamtausgabe, Kassel, 1962. Band I, pp.23, 27, 33-34.

〔参照〕海老沢敏・高橋英郎編『モーツアルト書簡全集』白水社、一九六七年。第一巻、一〇一―一五頁。

曲のソナタを王妃シャルロットに献呈した。交響曲の作曲や演奏会の開催を重ねる一方、八歳のモーツァルトは当地の指導的音楽家ヨハン・クリスティアン・バッハに啓発され、カストラート歌手ジヨバンニ・マンツォーリの厚誼と指導をうける。前稿で述べたとおり、この歌手こそポルトガルでの歌劇場 落しに出演し、リスボン大地震に遭遇したひとりである。一七六四―一七六五年度の国王劇場公演に招請され、そこでの盛況をレオポルドは羨望をもって書き残した。①

一七六九年から始まる長期のイタリア旅行でモーツァルト父子は、フィレンチェにおいてマンツォーリと再会し、さらにミラノとナポリで評判のカストラート歌手、ジュゼッペ・アプリーレのオペラ出演を観劇する。一七五三年ナポリでデビューしたアプリーレは、五年後にマドリッド宮廷へ招請され、同年五月三〇日アランジュエズ宮においてコンフォルト作曲の歌劇『天才の力』をテノール歌手ラーフと共演した。フェルディナンド六世が生前に視聴した最後の舞台である。まもなくスペインの王妃と国王が相継いで逝去し、側近である音楽家フアリネリは庇護するラーフおよびアプリーレとともに一七五九年スペインを去った。

レオポルド・モーツァルトの一七七〇年三月二七付書簡は、ボローニヤ近郊でのフアリネリ訪問を誌す。イタリアへ帰国し、ナポリで熱烈な歓迎を受けたあと、一七六一年から閑静な別荘に隠棲したのである。革新的な作曲家グルックは一七六三年に、またオーストリア皇帝ヨゼフ二世は一七六九年にこの山房へ来訪した。また、『十八世紀音楽史』の著者シャルル・ブルネイが数度の会見を懇請し、フアリネリの回想を筆記した。しかし、モーツァルト父子との会話がどのようなものであり、その席で天上の歌声を聴けたか否かは詳らかでない。

やがて一七七七年二二歳の彼は、ザルツブルク大司教座宮廷音楽家の職務を離れ、母親マリア・アンナとともにいわゆるマンハイム―パリ旅行に出立した。すでに二八〇余の作曲を果したわが子アマデウスに、レオポルドは旅先のマンハイムにおいてとくに信頼できる名士としてアントン・ラーフを推挙し、尊敬すべきこの名歌手に支援を仰ぐ助言する。

### レオポルド・モーツァルト 一七七七年十月十八日付書簡

宛先 アウグスブルグ滞在ヴォルフガング・アマデウス 発信 ザルツブルク

・・・そなたがマンハイムへ着いて、全幅に信頼できる著名人はラーフ殿であろう。この方は信仰に篤く、尊敬すべき人物で、同胞たるドイツ人を愛し、そなたに多大の助言や支援をされると思う。ラーフ殿のご尽力で、どうか選帝侯への拝謁と冬期の滞在が許され、そなたが真価を発揮できる機会を得られるようにと念じる。この方が最良の助言をされるであろうし、そなたも内密な相談ができるよう信頼を得ねばならぬ。ヴァイオリン奏者のダンナー殿は私の旧友で懇意な間柄であり、喜んで案内されるであろうが、自身の計画をラーフ殿以外にはだれにも漏らしてはならぬ。・・・②

③ テージョ王立歌劇場の柿落しに主役を演じたテノール歌手ラーフは、地震発生の以前にスペイン宮廷へ戻り、フアリネリの援護のもとに一七五九年までマドリッドに在留した。

- ①
- ② 邦訳 一六〇、一六二頁
- ③ Brito, *op.cit.*, pp.26, 28, 30-31.

一七五二年から一七五五年までアントン・ラーフは、リスボンにおいてペレーズやマッゾニの作曲による歌劇で歌った。テージョ歌劇場創設の 落しにカツファレリ、ガリエリ、レイナと並んで『インドにおけるアレキサンドロス大王』に共演し、主役を演じたことは、ポルトガル滞在における快挙のひとつである。怖るべき大地震によってやがて新劇場は崩壊し、ラーフをはじめこれらイタリア人歌手は奇蹟的に生き延びた。この僥倖をラーフは神に感謝し、故里に礼拝堂を寄進した。

マドリッドでファリネリの恩顧によりラーフはソプラノ歌手テレゼ・カステリイニとともにコンフォルト作曲『王女ニテテイ』を歌った。この名ソプラノや、さらにはカストラート歌手エリジヤやテノール歌手ドメニコ・パンザッチと共演する歌劇が定期的に組まれる。しかし、一七五九年ファリネリとともにスペイン宮廷に別れを告げた。

ニコロ・ヨンメツリの歌劇『アッティーリオ・レゴロ』に出演して以降、一七六〇年から一七六八年にかけてラーフはナポリで名歌手との評価を高めた。サン・カルロ劇場において歌劇『ウティカのカトー』と『インドのアレクサンダー』の初演で歌い、これらの作曲者であるヨハン・クリステイアン・バッハ（大バッハの十一男）と親交を結ぶ。

〔中略〕

一七七〇年ラーフは選帝侯カルロ・テオドールによりマンハイムに招請された。①

同年十月二十日マンハイムに到着したモーツアルト母子は、ただちにや旧知の宮廷音楽家ダンナーを通し、ヴァイオリン奏者カンナビやテノール歌手ラーフに紹介された。マリア・アンナ・モーツアルト

マリア・アンナ・モーツアルト 一七七七年十一月十四日付書簡

宛先 ザルツブルグ在住レオポルド・モーツアルト宛

マンハイム、一七七七年十一月十四日 ②

まもなくモーツアルトはカンナビ家令嬢のためソナタを作曲するとともに、舞台におけるラーフの aria 歌唱を聴いた。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトの書簡

宛先 ザルツブルグ在住レオポルド・モーツアルト

マンハイム、一七七八年二月二八日

・・・近々作曲したアリアを携えて、昨日ラーフ殿を訪ねました。（作品ケツヘル二九五）歌詞は「美しき敵よ、わが唇を信じないならば、」等々。この台詞はメタスタジオの作ではないと思います。私のアリアは彼を大層喜ばせました。これほどの人物には格別の配慮を要します。同じ歌詞によるアリアがすでに彼の演目があり、敢えてこれを選んだのです。だから私のアリアをより軽快に、一層欣然と歌うはずです。「声帯に合わず、好みに副わなければ、率直に申されよ。お望みならば、修正するか、新たに作りましょう。「その必要は断じてない。」と彼は応えました。「自分の発声かもはや大曲には耐え得ないので、願うとすれば、短縮して欲しい。」「お望みどおり喜んで短くしましょう。」

①

② 書簡集 二六七頁

総じて短縮は易しく、拡張が難事であるため、もともと長いめに作曲したのです。」

ラーフは第二節を歌ったあと、眼鏡を外して私を見詰めました。「美しい、美しい！第二節はまことに魅力的だ。」かく述べてそれを三度歌いました。別れを告げると、彼は鄭重に会釈をし、歌い易いようアリアを修正する、と私も約束しました。①

一七八〇年ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトは、ミュンヘン宮廷からつぎの謝肉祭のためオペラの作曲を依頼された。ホメロスの叙事詩『イリアッド』を始原とするクレタ王イドメネオの物語を題材に選んだのは、バイエルン選帝侯カール・テオドルまたはその側近とされる。ヴォルフガングは台本の作成をザルツブルク宮廷付司祭ヴァレスタに依頼し、ミュンヘンにおける作曲の過程でも原稿の部分的修正をしばしば要望した。ヴァレスタへの交渉と父レオポルドが引き受け、わが子の作曲に助言と激励を続ける。②

### モーツアルト一七八〇年十一月十五日付父親宛書簡

ミュンヘン、一七八〇年十一月十五日

#### 敬愛する父上へ

お手紙を含め、小包すべてをたしかに受け取りました。為替を深謝します。このところ正餐を自前で摂らずに済みます。だから理髪代、鬘代、洗濯代、それに朝食代のほかは出費がありません。アリアが素晴らしくなりました。なおひとつだけ変更の必要があり、それはラーフのためです。彼の申し立ては正しく、そうでないとしても老境の方には逆らえません。ラーフは昨日も私のもとへきました。彼が最初に歌うアリアを示したところ、すこぶる満足の様子でした。ただし、奇る年波のためこのアリアと同じく、第二幕のアリア、「海の果てにも、わが胸にもいまひとつ海あり」でも真価を発揮できません。第一幕のアリアでは台詞の性格によって朗唱できず、第三幕にはもともとアリアが含まれねため、最後の台詞「おお、幸せなるクレータよ！おお、幸せなる我よ！」のあとで四重唱に替えて美しいアリアを歌いたいと、ラーフは言うのです。たしにここでも無益な旋律を省けば、第三幕がより効果的になるでしょう。また、第二幕最後の場でイドメネオは合唱と合唱の間でひとつのアリア、より適切な表現ではひとつの朗唱を歌います。ここでは器楽を主とするレチタティーヴォを組むほうがよいでしょう。先日ルグランと合意した演技と群衆によって、この場面は当オペラのもっとも美しい情景となるはずです。③

①

② アツティラ・チャンバイ デイトマル・ホラント編、海老沢敏ほか訳『モーツアルト イドメネオ』音楽の友社、一八三二―一八四頁。

③ Brito, *op.cit.*, pp.26, 28, 30-31.